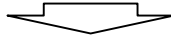


# 人と環境にやさしい循環バス利用促進事業の TDM実証実験計画(埼玉県桶川市)の概要 (平成13年11月～平成15年10月)

## 背景

桶川市は、中央部をJR高崎線と旧中山道が、またその東側には国道17号が南北に通っている。こうした中で、通勤通学者の多くが利用するJR桶川駅周辺は、路線バス、タクシー、送迎マイカー、自転車、歩行者が交錯し、路線バスの定時性確保が困難となっているとともに、交通安全上も大きな課題となっている。



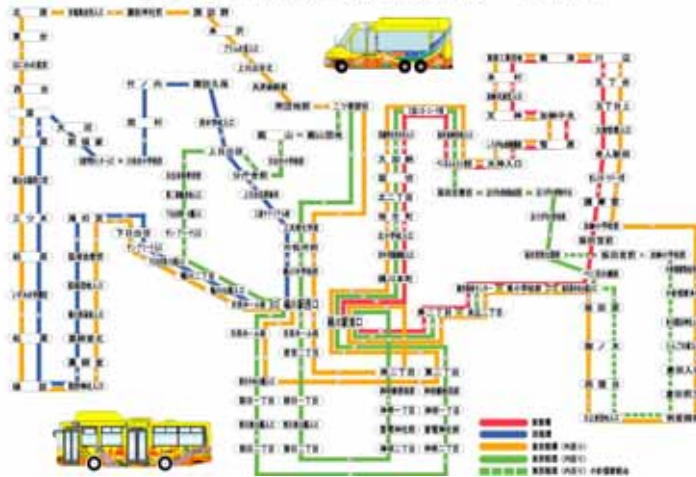
市内循環バスの充実を図るため、運行体制を強化するとともにサイクルアンドバスライドやバスロケーションシステムの導入、バス運行の円滑化のための信号調整等の有効性を検証する。

申請者 桶川市

## 主な実験内容

1. CNGノンステップバス導入による運行ルートが増設及びダイヤの充実
2. 市内公共施設を利用したサイクルアンドバスライド及びバスロケーションシステムの導入
3. JR高崎線の踏切を通過しないルートの設定と、信号制御による走行環境改善

## 桶川市内循環バスルート図

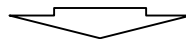


関係行政機関等によるTDM実証実験への支援(関東運輸局、関東地方整備局、埼玉県警察本部)



## 実験の成果

運行ルートの増設及びダイヤの充実を図ることにより、実験開始当初約23,000人/月であった利用が徐々に増加し、平成15年7月には約30,000人/月となった。  
サイクルアンドバスライドの導入に関しては、循環バスが交通空白地域の解消と高齢者等の交通弱者の移動手段確保をまず第一に考えた結果、一般利用者の通勤・通学にとって、運行便数、運行時間、運行ルートの面で、利便性に改善点があり、結果として増客などにつながらなかった。  
信号機調整実験の結果、事前調査時の旅行時間を大幅に短縮する結果が得られた反面、交差側道路の渋滞の悪化を招く結果となった。



## 実験後の状況

バスロケーションシステムを用い4ルートが本格実施。  
信号機調整による交差側道路の渋滞の悪化については、信号機の調整を一旦、元の通りにし、今後、県警と信号機調整のあり方を改善するため更なる検討を要す。(現在調整中)